

会長就任にあたって



古原 忠 東北大学 金属材料研究所長 教授

この度、第56代日本鉄鋼協会会長に選任されました古原忠です。鉄鋼研究に長年携わる者として大変な名誉であるとともに、その職責の重大さを強く感じています。

1915年に設立された本会は、100年以上にわたり、我が国および世界の鉄鋼研究・技術ならびに関連分野の発展、さらには人材の育成について大きく貢献してまいりました。私自身、学生時代から現在まで、講演大会や研究会での発表や討論、技術講座やセミナー活動への参加を通じて、多くの先生方、諸先輩、若手の方々と交流することで多くを学ばせていただきました。「実学に立脚した学問の道場」である本会の諸活動で鍛えていただいたことに深く感謝するとともに、会長として、微力ではありますが会員の皆様方とともに伝統ある本会の発展に尽力して参りたいと存じます。

日本の鉄鋼業は、社会基盤を支える最も重要な基幹産業分野として我が国の経済発展と国際競争力を支えてきました。しかし、昨今の中国・インドを中心とした諸外国の鉄鋼生産技術の著しい向上、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーなど国際社会環境の急激な変化、気候変動や頻発する大規模災害に対応できるレジリエントな社会システム構築の必要性など、多くの重要課題を抱えています。鉄鋼業においても革新的な技術発展が今後不可欠であり、それを支える学術基盤の飛躍的進展が望まれます。このような背景の下、本会が果たすべき使命は大きいと思っております。鉄鋼の学術・技術のさらなる活性化には、学会部門と生産技術部門の連携の強化が不可欠です。学術部会が担う自由な研究活動とシーズ発掘、技術部会・技術検討部会によるニーズ発掘が両輪となり、各種研究助成を通じた学術・技術の育成を継続するとともに、両部門の有機的連携によるシーズ・ニーズの融合を一層進めてまいります。さらに、オールジャパンの研究力を結集する大型プロジェクト提案も目指していきたいと思っております。

本会の活動は、現在のコロナ渦にも関わらず、オンライン講演大会での発表や議論、論文誌などでの質の高い情報発信が引き続き展開されています。欧文誌「ISIJ International」は、鉄鋼分野に特化した世界トップレベルの研究論文が掲載され、国際的に高いプレゼンスを維持しています。和文誌「鉄と鋼」では、一般の学術論文はもちろんのこと、会報「ふえらむ」とともに解説記事の充実など分野新興・人材育成に向けた努力も継続されています。両論文誌ともに特集号企画も活発に行われ、鉄鋼分野の最新の研究動向が得られる場として世界的に高い評価を得ていると考えています。商業出版社が運用する膨大なデータベースでの論文誌のグルーピングが飛躍的に進んだ現在において、鉄鋼協会の論文誌は一流の専門家による査読を経た高水準と完全オープンアクセス制度の両方を備えた貴重な学術誌であると認識し、その発展へ向けた企画・検討を今後も行ってまいります。

次世代の鉄鋼研究者・技術者の育成も本会が果たすべき重要な使命の一つです。本会が直面する課題として若手の鉄鋼研究者・技術者の減少がありますが、本会が行っている学生を含むアカデミアの若手から企業の若手・中堅までカバーする教育プログラムは、現在の鉄鋼業を支える強固な礎を築いてきました。今後急速に変化する社会要請に対応できる研究者・技術者の輩出がますます求められますが、鉄鋼業は資源・素材製造・環境問題まで包含した総合工学分野における格好の道場です。本会は、他の学協会・業界団体とも連携しながら、長期的視点に立った課題の解決を担う人材育成に対応するべく幅広い世代の啓蒙・教育活動の充実を図ってまいります。

以上に述べたように、激動する社会変化に対応すべく日本鉄鋼協会の活動を推進してまいりたいと存じますが、そのためには会員各位のご協力が不可欠です。まずは、ウィズコロナさらにはポストコロナ時代での活動の正常化が急務と考えておりますが、皆様の多大なるご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。